

つなぐ



<設立状況(30.12.1) 全41地区中>
 まちづくり協議会 26(28地区)
 まちづくり協議会準備会 2(2地区)

発行：松山市役所 市民参画まちづくり課 TEL: (089) 948-6963 FAX: (089) 934-3157

H P : <http://www.city.matsuyama.ehime.jp/shisei/machizukuri/chiikicomunity/machidukuri.html>

Vol. 22



久谷地区・松山市合併50周年記念式典



久谷地区まちづくり協議会

旧久谷村が松山市に編入合併して今年で50年を迎えました。これを記念して、地域がますます発展することを願い、10月21日(日)「久谷地区・松山市合併50周年記念式典」を荏原公民館で開催しました。

式典では、NPO法人ぶうしすてむの協力を得て作成した、これまでの久谷の歴史を写真で振り返るスライドの上映が行われ、参加者の皆さんは当時を懐かしんでいました。

式典後には、独立行政法人大学入試センター審議役の大杉住子さんを講師に迎え、昭和38年に旧久谷村が宣言した「文教村宣言」を話に織り込んだ講演が開かれました。

今後も久谷地区まちづくり協議会は、住民の住みやすい地域づくりを目指し、地区一体となって様々な活動に取り組んでいきます。

久谷地区まちづくり協議会のシンボルマークが完成し、地区住民からの応募により「くたポン」と命名されました。



昨年11月に久谷地区まちづくり協議会設立1周年を迎え、それを記念して「久谷まちづくり交流会」が開催されました。

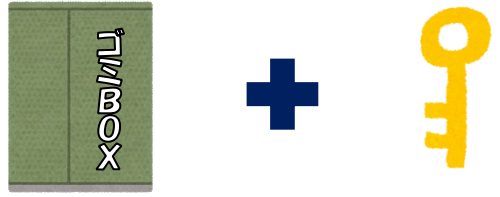
【久谷まち協の取り組み紹介】



グループ3

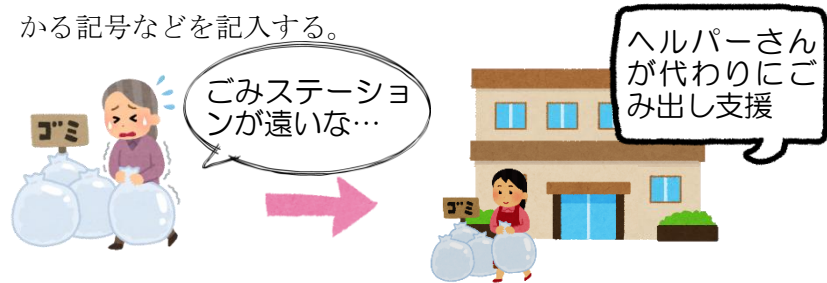
①前日からのごみ出しを可能にするボックスを設置

ダイヤル式の鍵がついた可燃ごみ専用のごみ出しボックスを設置し、ヘルパーや別居の家族などが前日からごみ出しができるようにするなど、地域でルールを決めて管理する。



②介護施設などに専用のごみステーションを設けてもらう

介護施設などの敷地内に独居高齢者のための新たなごみステーションを設置する。施設にごみを持ち込める支援対象者は登録制にし、持ち込むごみに登録者であることがわかる記号などを記入する。



グループ2

①資源ごみの訪問集団回収

地域と学校が連携し、ごみ出し困難な高齢者宅に学生が外向いて月1回程度資源ごみを集め、業者に売却する。リサイクルで得た収益は、地域活動で活用する。



②地区でオリジナルごみカレンダーを作成

間違えやすいごみの分別を学生やまちづくり協議会が協働して調査し、ごみに関する役立つ情報などを盛り込んだ地区独自のごみカレンダーを作成する。



グループ1

①若い人が協力したいと思う仕組みづくり

高齢者の生活支援サービス事業に賛同する協賛企業を募集し、その店舗を利用した際に割引などの特典を受けられる制度を作り、若い人が協力したいと思う環境を整える。



②ごみ出し支援サービスの認知度を向上させる

ごみ出し支援サービスの情報と、地区に特化した福祉や医療の情報を1つの冊子にまとめ、配布する。

また、その冊子を活用してサービスの認知度を高めるため、いきいきサロンや高齢クラブ、福祉に携わる人に周知する。



わがまち工房

わがまち工房は、市民に身近で関心の高いテーマについて、市民メンバーが主体となり、市の職員と協働して約半年間にわたって学習や調査、話し合いを行い、そこで出た考えをまとめて市長に提言する事業です。

近年、高齢化や核家族化の進展に伴い、ごみ出しが困難で十分な支援を受けられない高齢者の増加が全国的に問題となっています。そこで、今年度は、「地域力による高齢者のごみ出し支援」をテーマに、市民メンバー19人が3グループに分かれ、それぞれの考えを出し合いました。最終回では、各グループの活動成果を市長に報告しました。

全てのグループから提言されたアイデアを紹介します。まちづくり協議会で興味のある提言があれば、取り組んでみませんか？

始めてみよう 地域でできる エコ活動

◎石井地区まちづくり協議会 「EM菌を活用したごみ減量」

石井地区まちづくり協議会では住民レベルで環境問題に取り組むため、EM菌を使った生ごみの減量対策を行っており、町内会を中心にEM容器や活性液などが配布されています。

EM菌とは、有機微生物群のことです。英訳 Effective Microorganisms の頭文字をとってEM菌と呼ばれています。

EM容器を使うことで、生ごみの量は約10分の7程度軽減することができ、さらに、ごみの分解で出た水分は、水で薄めて植物の液肥、排水管・トイレに流して消臭・洗浄に利用することができます。

◎松山市の取り組み 「生ごみ処理容器等購入費の補助」

松山市では、松山市内の家庭から排出される生ごみを減量・たい肥化するために生ごみ処理容器（コンポスト、EM容器）および電気式生ごみ処理機の購入費に対して補助をしています。補助条件や補助金額、手続き方法などご質問がありましたら、清掃課（☎921-5516）までお問い合わせください。



地域でのエコ活動

◎生石地区まちづくり協議会 「3010運動で意識改革」

生石地区まちづくり協議会環境部主催で、ごみの分別とリサイクルについての講習会が開催されました。今回の講習では、松山市のごみ減量対策や3010運動が紹介されました。

3010運動とは、会食のスタートから30分間と終了前の10分間は自分の席で料理を楽しもう、という運動です。これを心がけることで、食べ残しで廃棄される食品を大幅に削減できます。また、正しい分別を心がけることでリサイクルされるごみが増え、エコ活動につながります。今回の講習を踏まえ、今後地域で何を取り組んでいけるかを話し合っていく予定です。

◎松山市の取り組み 「家庭から出るごみの分別説明会・出張講座」

松山市では、市内の学校や公民館等へ職員が外向き、松山市のごみ事情やリサイクルの流れについての説明会や出張講座を実施しています。地域で講座を開きたい方は清掃課（☎921-5516）までお問い合わせください。



啓発うちわ 表面



啓発うちわ 裏面



安心安全なまちづくりを目指すため、新玉地区まちづくり協議会と新玉地区自主防災連合会などが協働した防災大会が11月25日（日）新玉小学校で開催され、今年は400名を超える地区住民が参加しました。

倒壊家屋からの救出訓練では、新玉地区の防災士たちがジャッキなど救出に使われる道具を用いて実演しました。防災士たちの素早い作業に会場からは歓声が上がっていました。ほかにも新玉分団によるポンプ操法や組別対抗バケツリレー、キッズ大声救助訓練などたくさんさんの訓練が行われ、自助・共助の重要性を改めて実感することができました。



バケツリレーではどの方法が一番早く水を汲めるか作戦を立てている組もありました。

防災士たちの素早い動きと使っている道具に参加者は興味津々でした。

「ふるさと松山学「広がれ！ふるさと松山の心」販売中」



表紙には、松山市の市花の椿や伊予綱があしらわれています。

【販売価格】一冊一、〇〇〇円（税込み）
【販売所】教育研修センター事務所、文化財課、松山市立埋蔵文化財センター（考古館）、松山市立子規記念博物館、坂の上の雲ミュージアム（郵送販売もあり）

松山市教育委員会では、子どもたちに郷土への愛着や誇り、将来への志を育むことを目的として「ふるさと松山学」を推進しています。この度、松山の先生方や多くの地域の方からの協力を得て、新しい教材が完成しました。この新刊は、既刊本全七冊の内容を一冊にまとめたもので、松山を代表する正岡子規、松山城、道後温泉など松山ゆかりの先人の生き方や歴史、伝統文化といった松山の良さを詰め込みました。子どもたちに分かりやすく紹介するとともに、大人も一緒に楽しく学べる内容となっています。松山の魅力が詰まった一冊になっていますので、ぜひ、お買い求めください。詳しくは、教育研修センター事務所のホームページをご覧ください。（☎089・989・5144）

城北、松山城周辺、城南3エリアに分けて句碑等の場所を示しています。



【今後の目標や抱負を教えてください。】
久谷まち協では「久谷は一つ」を合言葉に地区の活性化を目指し、文化的行事の継承、高齢者から子どもまで安心できる「癒しの里」づくり、そして笑顔あふれる地域づくりを推進していきます。広報部としては、年2回発行の広報誌などで魅力ある情報発信をしていきます。

【「まち協で活動して良かったことを教えてください。」】
多くの方からパワーをいただき、自分自身の成長につながっています。今後周りの協力を得ながら久谷の「まちづくり」を推進していきます。

【「まち協でどのような活動に取り組まれていますか？」】
発足してから日が浅いのでまち協単独の行事は少ないですが、今年度は表紙の久谷村・松山市合併50周年記念式典や小学生らが史跡を訪ね歩く里山ウォークを実施しました。

【「久谷地区はどのようなところですか？」】
松山市の最南端に位置し、石鎚山につながる四国山脈に守られた自然災害の少ない緑豊かで牧歌的な農村地帯です。文化財や史跡も多くあり、お接待の心を持った人情あふれる土地柄です。

第20回 まちづくりで輝く人 地域で活躍している人を紹介します



久谷地区まちづくり協議会
広報部長
白方 久志さん

今回の表紙を飾った久谷地区・松山市合併50周年記念式典でも活躍されている白方久志さんを紹介します。

経歴・趣味

昔はゴルフ、釣り、写真、自動車（ラリー競技）などしていましたが、今は野菜作りに没頭中です。